

平成23年度 第6回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 未来を担う青少年の健全育成 ～



日時：平成23年10月3日（月）

午後7時00分～8時30分

場所：本庁舎7階 第5委員会室

参加者

ボーイスカウト西部初雁地区川越協議会、ガールスカウト川越地区協議会、川越市少年の船・翼修了者の会、青少年相談員協議会、川越市吹奏楽団、青少年を育てる地区会議、川越市少年補導員会の皆さん 31名

出席者

市長、宍戸副市長、市長秘書、市民部長、青少年課長

意見数

分類	件数	内容	頁
保健・医療・福祉	2	中学生が担う地域福祉活動 成年後見制度	22 22
教育・文化・スポーツ	8	地域活動に参加する時間 学校の草むしりは子供たちに 吹奏楽の演奏会 道徳教育の充実 学校の体験学習 生きる力の教育 学校・自治会・子どもサポート委員会の区域 荒れる学校の対策	3 3 7 8 11 13 15 17
都市基盤・生活基盤	7	キャンプ施設の設置 子供の遊び場 公園の使い勝手 公園の管理 野外活動施設の設置 なくわし公園 河川敷のキャンプ	6 16 16 16 19 21 21
地域社会と市民生活	9	青少年健全育成のための連携 人命救助の講習 行事予算の助成 ナイフの使い方 ボーイスカウト活動の広報 万引き対策 小中学生の体験研修 大人のモラル教育について ノーブレーキピストの規制	2 3 3 3 6 8 10 13 23
行財政運営	1	青少年健全育成のための行政組織の一体化	2
計	27		

意見交換（要約）

《青少年健全育成のための連携、青少年健全育成のための行政組織の一体化》

意見 最初ですから、余りかたくならずに発言させてもらいたいと思います。

青少年の健全育成というのは、実態として地域の中でそれぞれ大変な部分があるのかと思うんですが、まさに今日のテーマにあるように未来を担う青少年ですから、そういった意味で行政と、教育委員会もそうなんですけれども、あとは家庭と学校が連携をするということがよく言われています。昭和の中ごろからこの三者が連携しなきゃいけないというのは盛んに言われてきているんですが、なかなか実態が難しいのかなと思います。しかし、やはり次世代を担う青少年に対しては我々地域としても考えていかなきゃいけないという中で、三者の連携がもうちょっとうまくできないのかなといつも考えているんです。

その地域の取り組みというのは、やはり地域独自の役割というのがあるわけで、それはまた学校とは違って、いろいろな体験や経験をさせてあげる、小さな経験をいっぱいさせてあげる、そういうことが地域でやるべき役割ではないかと思っているんです。

いろんな意味で、子どもたちの安全と安心をガードするというだけだと、もう何も考えない子どもになってしまうかなと、その辺がちょっと危惧されると思うんです。子どもたちの将来を考えると、日本は資源がない国ですから、「科学技術創造立国 日本」ということで、まさに今日のテーマではないけれども、20年、25年先の将来を考えて、日本を背負っていかなければならない青少年を育てたい、そういう夢を持ちながら地域活動をやっているわけですが、そのために組織をつくったり何かすると、いいことだけを並べてなかなか行動計画に入らないので、その辺の連携がもうちょっとうまく行って、泥臭い部分があるかもしれませんが、子どもたちがそういう環境の中で育ってくればいいのかと、そんなことを考えております。

例えば青少年を育てる地区会議だとか、それから子どもサポート委員会というのをこの間つくりましたよね。もう7年目に入っていると思うんですが、そういった中でもそれぞれの地域でいろいろな活動をされていると思うんですが、つまり、行政としては教育委員会、市長部局で組織はつくっているんですが、地域は一つなので、行政間の一体化を考えたほうがいいのかなと思っています。地域はどうしても町会、自治会が基盤になっていますので、行政の組織と地域の組織基盤とがうまくリンクできるようにしてもらったらありがたいと思っています。

いずれにしても、次代を担う青少年というのは、言葉だけではなくて、いかに行動を起こしていくか、子どもたちのそういった生きる力をテーマにしている部分がありますけれども、将来を担う子どもたちのための行動計画ができればいいのかなと思っていますので、その辺をお聞かせいただければと思います。

川合市長 なかなか難しい問題だと思うのですが、今の話は一つのご意見として伺わせていただきたいなと思っていたのですが、確かに今の子どもたちは経験とか体験が昔の子どもに比べて少ないというようなこともございますので、行政としては、子どもサポート委員会をつくって、地域の人が子どもたちにいろいろな体験をさせてくれるような授業をやっていただくという方向で進めていると思うのですね。あの子どもサポート委員会というのは比較的うまくいっているというか、それなりに成果が出ていると思いますので、ああいうようなものをさらに充実していくような形で、地域と行政と各種団体とが一体となって子どもを育てていくという方向でいけばいいのかなというふうに考えております。

《地域活動に参加する時間、人命救助の講習》

意見 ここでお願いしたいのは、教育委員会のほうも地域活動を今おっしゃったようにサポート委員会でやるんですね。だから学校のほうでも本当は教育してもらおうと、子どもたちを参加させるように支援してもらおうといいと思うんです。今の子どもたちは実際に部活動や塾でとにかく忙しい毎日を送っているようですから、その辺で地域活動に参加する時間をつくってもらおうような、カリキュラムみたいなものを学校あたりで考えてもらわないと、地域活動になかなか参加できないのが実態だと思いますので、その辺をぜひお願いしたいなと思います。

もう一点は、3月11日の震災から、中学生にも地域の中でどういうふうなことができるのか、災害があったときに中学生が地域で人命を救助するとか、例えば普通救命技能講習を受講してもらって、その中学生が地域に出ていくということになると、それも大きな取り組みだと思うんです。中学生がそういった取り組みをしているのは、全国でも既に何カ所かで始まっていると思うんです。そういう意味では川越あたりも災害のときに備えて、来年は市制施行90周年もありますので、それらを含めて安心して暮らせる川越のまちづくりというようなことでおつくりいただければと提案をさせていただきたいと思います。

《行事予算の助成、ナイフの使い方、学校の草むしりは子供たちに》

意見 うちのほうでは、いろいろな行事をやるのに予算が要るので、自治会を通して一戸当たり100円ずつもらっているんです。そうすると大体6,300戸ぐらいあります

ので 63 万円ぐらい入ってきて、あとは川越市の補助金とか、それから社会教育振興会というのがあるんですが、そこからも予算を補助金として 5 万円もらっていて、年間行事としては、もう 15 年ぐらいになりますけれども、川越市の山車を毎年、今福と中台というところが、六軒町と仲町の囃子連なんですね、そのおおもとなのでやっています、最初は 100 人ぐらい、今年は全部合わせて 200 人出してもらえて、六軒町と仲町の場合は綱が短いというので、子どもたちがいっぱいいるので綱を長くしてもらった経緯もあります。それを 1 回やると大体、手ぬぐいを参加者の皆さんには配布したり、仲町と六軒町も子どもたちにお土産としてお菓子を用意してくれるんですが、そのお金として約、お祝い金も合わせて、人数掛ける 500 円ぐらいをこちらとしてお土産として出すんですけれども、そうすると子どもたちの参加が年々増えてくるんです。

そこで私が一番最初考えたのは、地元に住んでいながら川越まつりに行ったことがないという子どもたちがいっぱいいたんです。それと綱を実際のお祭りの中で曳けるという体験は、子どもたちはすごく喜びますね。ソーレ、ソーレと声をかけるということが、最初はいやがるんですけれども、大勢で周りからやっていくと、それに反応してみんなすごく声を出すようになるんです。最初は照れててやらないんですけれども、だんだんやるようになります。そういうことをやるにしてもやっぱり予算がすごく必要なんです。

あと、5 年に一度か 6 年に一度、大体バス 3 台、150 人の希望を募って九十九里で地引綱をやっています。埼玉県は海がないですから、小学校の 6 年間のうちに一度は海でそういう体験をさせてあげたいかなというのがあります。それにもやっぱりお金がすごいかかります。弁当代として一人 2,000 円から 2,500 円いただきますけれども、あとはバス代とか何かはこちらで負担しないと、負担が多過ぎちゃうと参加者が少なくなってしまう。そういう意味ではすごく予算がかかります。だから川越市のほうでもいま少しそういう面を考えていただければなと思っています。行事は福原でもいっぱいやっておりまして、一つ一つ受益者負担もしてもらってますけれども、それでもお金が、予算がかかります。だから主要な部分は川越市のほうでも考えていただければかなというのが一つです。

もう一つは、今は車社会ですけれども、車と同じようにナイフを使うというのがすごい大事なような気がします。教習所では車の運転の仕方は教えてくれますが、今の大人はナイフの使い方を教えられない。私たちが子どものときはみんなナイフを持っていました。そのナイフでいろんなことをやりました。だけど今の子どもたちは、多

分、自分で手を切って痛いのがわかれば人なんか絶対刺さないと思うんです。だからそのところが、使えなくするのではなくて、使い方を教えるというのが大事なんじゃないかなと思います。そこをどういうふうに考えているのか、教育委員会なり川越市のほうではどういうふうに考えているのか伺いたと思います。

それともう一つ、私は結構いろんな学校によく行きますけれども、学校では用務員さんが花壇をよく手入れしてきれいにしています。だけど花壇の周りの木が生えているところは草ぼうぼうです。それでどういうふうにむしってもらえるのかなと思ったら、保護者にやらせるというんです。だけど自分の学校の周りぐらいは子どもたちにやらせるべきじゃないかと思うんですが、どうでしょうか。

川合市長 3つおっしゃられたうちの1点目は、ご要望として検討させていただきます。

2点目の、ナイフの使い方を教えるという点ですけれども、ナイフを持たせなくなってしまったというのは、いろいろな経緯がありまして、多分、私が小学生のころからそういうナイフは持たせないようにしようという運動が始まったような記憶があるのですね。

今、例えば学校でナイフを使う教育をすると、子どもがけがをした場合にどうするのかと、そういうご意見のほうが多分保護者の間には強いのではないかと思うのです。ちょっとしたけがだったら保険で対応できるかもしれないけれども、手がすべて友だちを刺してしまったとか、そういうことになったらどうしてくれるのかとか、そういうことがありますので、確かにいろいろな心配をして、全く無菌状態で、何も経験しない状態の中で育てたらどんな大人になるのか極めて心配だというのはよくわかることですよね。だからそういう体験的なことというのは、できれば家庭の中でやっていただくのが一番いいのかなと今の私はそういうふうに思っているのですが、教育委員会も多分そういう考えだと思うのです。

意見 私がちょっと考えているのは、今家庭でやらしてもらえればいいという話ですが、学校でそういうものを持ってはだめだという教育をしているような感じなので、それを家庭の母親なり何なりが、要するに今はけがをさせないようにかばってしまうというか、無菌状態にしちゃってるというのが、それが一般の風潮になってしまっているのかなという気がするので、今の子どもたちは多分鉛筆も削れないような感じだと思うんです。

川合市長 削れないでしょうね。みんな鉛筆削りで削っているから、昔みたいにナイフで鉛筆を削るなんていうことをやったことが全くない、少なくとも今の30代ぐら

いから下はそういう世代だと思いますよね。

確かに、器用に道具を使うという作業もどこかで教え込まなければいけないのだけれども、今、教育委員会でそういうことをやるというのはなかなかハードルが高いというか障害が大きい、そんな感じですね。もちろん、なるべく安全な方法でいろいろな体験をさせたいという思いは私も持っていますし、教育委員会も考えていると思いますので、ご意見は検討させていただきますけれども、ナイフに特化して言えば、それはどちらかといえば家庭で教えていただくのが一番いいのかなという気はします。

それと、花壇を子どもたちに掃除させるというのは、それは全くごもつともだと思っていますので、今でも掃除とか草むしりとかはやらせてないのですかね。

意見 と思いますね。

川合市長 昔は草むしりもやりましたよね。

意見 私が長瀬の友だちからちょっと聞いた秩父の話ですが、秩父では小学生のときに二宮金次郎をいつも磨かされたということで、そういう学校があったらしいです。そういうことを今やれというわけじゃないですけども、それにしても少しかれいにしてもらいたいという、それを校長さんに聞いたら親がやるんだと、PTAなり何なり親がやるんだというから、それは教育が違うんじゃないかなと思ってますけれども。

川合市長 少なくとも草むしりぐらいさせるというのは前向きに取り入れていきたいというふうに思います。

《キャンプ施設の設置、ボーイスカウト活動の広報》

意見 ボーイスカウトの活動というのは野外活動で、キャンプなどもやりますので、そのために場所を確保するのに常に苦労しているわけです。川越市ですと伊佐沼でキャンプができる状況ですけども、かつて川越市にも山の家がありまして、そこを私もボーイスカウトではいろいろと利用させていただいたんですが、現在は閉鎖されています。それにかわるようなものがもしできましたら、設備としては、ちょっとした芝生広場と森、それからバンガローのようなものがあれば十分で、もちろん自炊ができるような状況であれば、もう一カ所何とか確保していただけたらと思います。

ボーイスカウトは野外活動が中心ですので、そういった設備がありますと非常に助かります。他の市なんかでも確かに炊事場もありますけれども、やはりその市民でないと優先的に利用させてもらえない関係もありますので、ぜひ川越にお願いできればいいかなと思います。

新聞情報なんかによりますと、今回の震災の関係から小・中学校でも全員がキャン

プをやるというような話もあるようですけれども、私どもはもともとそういった野外活動を中心に青少年の健全育成に貢献していると思っております。

もう一つ、私どもの日ごろの努力が足りないと言われるとそれまでなんですけれども、広報といいますか、市民の皆さんに知っていただきたいということで、私どもの活動を広報に載せていただけるような、お願いすれば載せてはいただけると思いますが、何しろ字数も限られ、それから回数も限られるというようなことで、なかなか実態までを皆さんにお知らせするような形ができないので、ちなみに私どもは青少年課さんに非常にお世話になりまして助成金をいただいております。大変お世話になっておりますが、そういった面もありまして、ぜひそういった広報に掲載を、私どものある程度の様子ができるようなものの掲載の機会を与えていただくとありがたいなと思います。

必ずしも広報でなくても、関連の市のお知らせといいたいでしょうか、市民の皆さんにお知らせする機会を与えていただけたらありがたいと思います。細かい話で申しわけないですが、要望としてお願いしたいと思います。

市民部長 ホームページとかは立ち上げてないのですか。

意見 あります。

市民部長 市民会館とかいろいろなところでいろいろ催しがありますよね。そういうところで関心のある方にいろいろなものを発信するということもいいかと思うのですけれどもね。広報につきましては、いろいろなところからご要望がありますけれども、載せるチャンスというのはあると思いますから、ぜひそちらのほうにお話をいただければというふうに思います。

《吹奏楽の演奏会》

意見 私は川越市吹奏楽団の音楽監督をやらせてもらっていて、なおかつ市立川越高校さんの吹奏楽部のコーチもさせていただいてお世話になっているんですけれども、吹奏楽部の生徒と話しているときに、思ったよりも今までの人生の中で演奏会というものに行ったことがないという生徒が結構多くて、ここに川越市吹奏楽団のメンバー5人いますが、それぞれ30代なり40代の年齢がいる中で、やっぱりそれ相応のホールに連れていってもらって見たオーケストラの意識がすごく強く自分の中に残っているんですね。それが起爆剤となって、今もなお、こうして音楽を続けていられるわけです。

川越市さんももちろん、いろんなところから、多分読売交響とかいろんなところから演奏しにきてくれるとは思いますが、そうじゃなくて、演奏会ってどうし

ても料金が高いんですよね。そうなってくると、学生料金という形ではあるのかもしれないですけども、どうしても敷居が高いという部分があると思うので、演奏会をやるときに、川越市さんが呼んで子どものための演奏会を、オーケストラにしてもそうです、まず子どもたちが一番最初に触れるのは、トランペットとかホルンとか鼓笛隊とかの吹奏楽部から入ると思うんですね。吹奏楽部の団体も何団体かございますので、NHK交響楽団が毎年夏に子どものためのジョイントコンサートというのをやってまして、絃じゃなくて吹奏楽を演奏してくれるんですね。その一番最初に楽器体験コーナーとかがあって、プロの人たちがじかに教えてくれるというイベントを都内で毎年やっていますので、そのような形のものが川越市で行われて、料金的なものが多少クリアできる状況であれば、各小・中学校とかでそれを宣伝すれば、多分行きたくないなと思ってくれる人はすごく多いと思います。音楽好きな立場から言わせてもらいますけれども、音楽ってやっぱり心を豊かにしてくれると同時に癒しもすごくあると思います。6年間生徒たちをずっと見てますけれども、すごくのびのびとして、その後の人生の中でそのまま続けてくれる人たちも多いので、川越市のほうでも、川越市民会館とかジョイフルとかいろんなところがあると思いますけれども、もっと率先して呼んでいただけるとよい経験になるのではないかなと思いますので、よろしく願いしますという要望です。

川合市長 はい、わかりました。

市民部長 市民活動支援課というところがございまして、皆さんと一緒に支援して、お金を出し合ったりして、そういうようなものもありますし、皆さんと一緒に組んでやろうかというようなお話もありますので、南古谷のオーケストラも協働事業でやっていますから、なかなか皆さんのほうから見ると、市がやってることだとちょっとというようなものがあつた場合は、一緒に組んでやるという方法もあると思うんですね。ですからぜひ、市民活動支援課のほうにそういう窓口がございまして、どこまでご期待に沿えるかどうかはわかりませんが、ぜひご活用いただければと思います。

《万引き対策、道徳教育の充実》

意見 うちのほうでは、もう十数年前からこども110番ということで川越市全部に行き渡るように一生懸命協力させていただきました。そのときに子どもの安全・安心ということでかなりやってきたわけですが、ここのところの子どもの状況を見ますと、万引きが非常に多いんですね。この間も青少年を育てる会のほうで生活安全課の係長の方を呼んでその辺のところを聞きましたら、毎年、小学生、中学生の

万引きが非常に多くなってきており、軽犯罪のほうに入ってきているということをお聞きしました。

うちのほうは夏のパトロール、年末年始のパトロールということで、総勢 30 人ぐらいの、1 回に 15 名から 30 名ぐらいで結構やっているんですけども、本屋さんなんかに行きますと、結構取られているということをお聞きします。川合市長さんは防犯委員長でもありますので、その辺のところをお聞きしながら、私が思うのに、学校で道徳の授業というのが恐らくあるのではないかなと思うんですけども、そういうところで万引きは犯罪であるよと、こういったものを子どもに見せてやるというのも一つの案じゃないかなと思うんです。

家庭の教育ももちろんでしょうけれども、家庭でできることというのは、もうある程度しかできない。やはり学校の全部の生徒にそういうものが行き渡るようにお話をさせていただいて、子どもに万引きしちやいかんぞということをもう少し徹底していただいたほうが非常にいいんじゃないかなと思うんです。

万引きは全然つかまっていないうし、かなり集団化しているということも聞いております。警察のほうも、意外に厄介なもので、現行犯逮捕でやるということをおっしゃるので、その辺のところを市長さんにも、教育委員会を通じて一歩前に出ていただく形で取り組んでいただければと思っております。これは要望をお願いいたします。

川合市長 もちろん道徳の時間というのはありまして、物を盗ってはいけないとかそういう教育もきちんとしているはずではありますけれども、万引きなんかが増えていく傾向にあるということであれば、さらにそういう教育を強めていきたいと思えます。

宍戸副市長 埼玉県では、道徳教育も大分時間が増えてまいりましたので、一昨年、独自の道徳教育の教科書をつくって、これは親御さんの解説書のようなものをつくって、お配りするようなことをやっております。かなりそれが評判のいいものをつくっておりますから、そういうものを中心にやっっていこうという考えでおります。

あと、必ず県なんかでも、市もそうですけれども、やってはいけないことはやってはいけないと、だめなことはだめなんだというふうに教えることが第一ということで、そういう方向で頑張っています。ただ、なかなか効果が出ないところがありまして、金を返せばいいのだろうというふうに言う者もいますので、徹底的に教え込むように、だめなものはだめと教え込むという方法で教育委員会も頑張っていると、そういう認識はしておるところでございます。

意見 ぜひお願いしたいと思います。

《小中学生の体験研修》

意見 私たちは、中学校3年生の夏休みに、川越市の姉妹都市である北海道の中札内村に研修に行かせていただいたんですけれども、翼の研修ではすごい有意義なことをさせていただきまして、以降、その研修と一緒にいった仲間たちとはいまだに交流が続いていたり、そのときの体験、経験から将来を考えたりという形になって、すごく自分のためになった研修でした。

ところが、川越市にはそういう小・中学生が行けるような研修というものが余り見当たらないなというふうに思います。自分が中学生で研修に出たときは、たまたまその翼の研修を先生から教えていただいたり、アメリカやドイツとかの姉妹都市も知っている人は知っているけれども、知らない人は知らないし、翼に関しては各学校から2名、アメリカなどの海外の研修は各学校1名というふうにすごく限られたものであるのも、もっと、大々的なものでなくても、小・中学生が参加できる研修などがあつたほうが、市の行事とか市の研修というものがあつて、自分の住んでいる市にかかわっている、自分の住んでいる市で勉強ができるという何か行事などがもっと増えれば、もっと川越が好きになったりとか、私はその研修に行つて川越の文化を学ぶことができ、そこで行かなかつたら私は多分川越市にあるおまつり会館とかに自分から足を運ぶことはなかつたらうなと思うので、そういう機会がもっと、学校単位で社会科見学に行つてくださいますとかではなくて、川越市から働きかけなどがあつて、市役所で働いていた方の話を聞くとか、市長さんとお話をするこういう機会を小・中学生と設けるとかという経験をするだけでも、ちょっとした人生の経験になって、こういうことを私はしたんだというふうに、それがきっかけとなつて何かまた私は将来川越市に何か貢献をしたいとか、そういう気持ちになつたりするんじゃないかなと思うので、そういう小・中学生、学生向けの研修というものを設けてくれたらいいなと思つております。

川合市長 今、市がやっている小・中学生のそういう体験研修みたいなものは、どちらかというところと広く知らせて手を挙げてもらうという形ではなくて、一校何人というふうに割り振つて、それで学校の中で選んでもらってくるという形ですから、確かにごく一部の選ばれた人だけの研修になっていることは間違いないと思うのですね。ですからもうちょっと裾野を広げることを考えるべきだというのはよくわかります。

ただ、あとは、市がそういうことを主体となつてやるのか、学校が主体となつてやるのか、それは今おっしゃつたように市が主体となつてやる研修がもっとあつたほう

がいいと、それも一つのご意見として検討させていただきたいと思うのですが、小・中学生を相手にする研修となると、やっぱり学校を中心に、学校を主体にいろいろなことをやらせるという、どうしてもそっちのほうが中心になってしまいそうな気がしますね。

宍戸副市長 今、全県で力を入れているのは、川越もそうですけれども、ちょっと方向は違いますが、農業体験研修ということで、農家の方のご協力、あるいは農協のご協力をいただいて田植えから稲刈りまでの研修を行っています。研修というよりは授業の一環として実体験を踏むということで、先生以外の方から教わる授業を、はだしになって田んぼを歩けるようにということで、そういうこともいろいろやっています。それはもう教員以外の地元の農家の方から教えていただくとか、昔の農家の話を聞いたりとか、そういうことを全県で進めています。

今、市長が申しあげましたようになかなか遠くへお連れするのは、ちょっと厳しいものがありまして、学校の近くとか、あるいはエクスカージョン的なものについては各学校とも進めているというように私は理解しております。それにプラスされて今おっしゃられたことも教育委員会によくお話をし、はっきり申し上げれば、何か子どもたちの目が変わるようなことを考えてくださいということをお願いしたいと思っています。

そういう意味ではたしか去年から、子ども大学という事業で、大学と地域と商工会議所と市と県が一緒になって、大学の授業を小・中学生に教えるということを始めしています。近くでは東洋大学とか東京国際大学とかでやって、例えばスカイツリーの構造と奈良唐招提寺の塔の構造が同じだとか、それはなぜとか、まさにそういうようなことを、子どもたちの目が変わるようなことをやさしく教えるという、そういういろいろな新しいことを皆さんにお知らせをして学びの機会を提供しています。

あと変わったところでは、商工会議所とか銀行から金融の話をするということもやっています。例えばりそな銀行さんが来て、これは中学生以上だと思いますけれども、りそな銀行さんに金融の話をしてもらう、そんなことも今始めていますので、民間の方の力を使ったり、行政の力も使って、川越市の文化をどんどん押し上げるように関係者にお話をしたいと思います。

《学校の体験学習》

意見 先ほどの市長のお話にあったんですけれども、特別な何かそういう研修だとかを行うのであれば、やはり各学校にその研修を依頼するというか、そちらが中心になるというお話だったので、例えば学校ごとに独自にこういうことをやって

みようということとその学校の先生方が考えて、それを実行に移せるまでの自由度とか、その学校ごとに独自にやっってしまうというその程度の自由さはあるのかなというのが疑問に思ったんですが、どうでしょうか。

川合市長 理屈の上では自由度はありますが、ただ現実問題として、お金の問題だとか時間の問題であるとか、それから保護者の了解がとれるかどうかという問題があるので、なかなかそういうことを実行しようという発想にならないという面があるのではないかと思うのです。授業時間だけでもうきちきちで、例えば夏休みとか土・日を使ってそういう体験授業みたいなことをやろうとした場合に、土・日は好きにさせてほしいとかそういう意見も出てくるでしょうし、そういういろいろな問題があるかとは思いますが、私の意見としては、共同生活をするような経験を中学生ぐらいのときに、修学旅行もその一つですけれども、一緒に食べて、あるいは食事も自分で準備してとか、そういうキャンプみたいな経験がかなり重要な研修、経験になるのではないだろうかというそんなイメージを持っていますので、例えばそういうようなことがなるべく多くの人にできるように、そういうことはしてみたいと思います。

市民部長 新しい何か出会いとか新しいきっかけとか、今まで経験したことがないようなことであると、そこで進めているわけではないですけれども、何人かの方が興味を示したり、いろいろなものがあると思いますよね。

今日お見えになっている皆さん方は、青少年の健全のためにいろいろなところでご活躍をされている、そういう人たちのネットワークとか、皆さん同士のお話し合いになってくだされば、そこに入っている人だけが何とかをやるというのではなくて、みんなと何かやれるような機会があればいいですよ。ですからぜひこういうような、もうすばらしい人が集まっているわけですから、皆さんとお話し合いが、今日はたまたま市長とですけれども、今度は皆さん同士で話し合う何か機会みたいなものがあればいい意見が出て、もっと違う裾野というのですか、違う人同士の交流ができるのではないかと思います。皆さんはそういう強い気持ちに燃えている人で、代表してやったださっているわけですから、その中だけではなくて、みんなとやっもらうというのもいいのかなとは思いますが、うまく話せなくてすみません。

宍戸副市長 職場体験とかがすごく人気があって、たしか床屋さんとかパーマ屋さんとかお花屋さんとか電気屋さんとかに3日から5日ぐらい行って体験することを全県下で中学生がやっていますね。これはすごく評判がよくて、ちょっと今の話とは違いかもしれませんが、違う体験をすることがかなりプラスになる。もし皆さん方のそばに来たら、一言声をかけてあげると大変喜ぶかなと思います。特に人気があるのはケ

ーキ屋さんとお花屋さんですけれども、中には工事の現場に行きたいとか、そういう子もいますので、もし見かけたら地域の方は声をかけてあげると全然違うと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

《大人のモラル教育について》

意見 少年補導員として中央補導と地域補導を月に2回ずつやっています。子どもたちが喫煙だとかそういうことを見かけたら声をかける、子どもたちは話をすれば答えてくれるし、素直にタバコなんかを吸っていた場合でも消してくれたりしますし、タバコだけではなくて自転車の二人乗りだとか、今の時期になると夜間の無灯火とか、全部が全部素直にとってくれるわけではないけれども、素直になってくれると思うんですね。

ただ、そういう中で一番困るのは大人なんですね。声をかけても無視されたりとか、あと本当に困るのは、小学生なんか赤信号で待ってる脇を平気で大人が信号無視して渡っていくんです。朝なんか駅前スクランブル交差点を見ていると、立派な30代、40代の背広を着てネクタイをしたサラリーマンが、制服を着た高校生がみんな信号が変わるのを待っているのに、信号を無視して横断して行ってしまうというのがあるんですけれども、それを何とかできないものかというのが一つございます。

前に公民館の生涯学習でそういうことを学習する講座がありましたけれども、昔は家庭内でそういうしつけだとかそういうものがあっていたけれども、今は学校に押しつけてしまってできてないという部分もあるし、だからもう少し大人のほうも学習していかないと、健全育成のための、大人のほうのモラルとかを正すために、そういう何かを考えていかなければいけないだろうというふうに思っております。

たまたま今日ここに来る前にテレビを見ていましたら、学校の周辺が時間帯によって通行止めになる、車両が通れないようにするというのをやっておりましたが、それがちゃんと書いてあるのにどんどん入ってくる、注意すると全然気がつかないと言っている大人がいて、だから子どもに言わせると、大人はいろいろ言うけど自分はルールを守ってないと、本当にそういうことが川越市内でも日常茶飯事に起きていると思うので、そこを何とかならないかなというふうに市内を歩いていて感じます。

川合市長 歩いているときの信号無視などは、なるべく子どもたちの模範になるようなことはやっていかなければいけないと思っています。

《生きる力の教育》

意見 今いろいろなところで生きる力、生きる力って言葉が聞かれますけれども、実際に子どもたちの生きる力っていうのをつくるためにはどうしたらいいんでし

ようか。

昔は、子ども同士でいっぱい遊んで、子ども同士がいろんなルールでいろんなことを教え合っていたんですけれども、今はその機会がなくなってしまって、知識のほうばかりで、親が過保護というのか、親が全部その子どもたちの時間まで奪ってしまっているのかどうかわからないんですけれども、子どもたちが子どもたち同士で遊ぶ時間がないから、子どもたちは子どもたち同士のルールをつくる時間がないので、生きる力をどこで子どもたちに教えたらいいのかというのがよくわからないんですけれども、そういう面をどうしたらいいのか。

意見 中央地区のサポート委員会ではまさに生きる力を、生きる力とは何かということ、安全の担保も当然必要なんですけれども、そうではなくて自分たちが自立できる、要するに自分の力で遊びを見つけるとか、すべて自分の責任で行動を起こすというような、そういうサポートをしようということで「青空児遊団」というのを立ち上げたんですね。青空というのは表、児遊団というのは子どもの遊びで、そういうテーマでやろうとしているんですけれども、まさに今お話があったように子ども社会がなくなってしまった、何とか子ども社会をつくってあげたいというのが、我々大人社会が考えたらいい、それが大きなテーマです。

子ども社会というのは、昔遊びなんかをよくあちこちでやっていますけれども、あれは本質的には子ども社会を、昔はこういうことをやってましたよということではなくて、昔遊びというのは、子どもが主体になって遊びをつくったわけです。例えばベーゴマをやって取られちゃうと、今度は取られないようにどうしたらいいかと、そういう葛藤が子ども社会にあったはずなのに、あれもだめだこれもだめだという社会になってしまっているから、子どもたちは全くそういう、安全が担保されれば大人は満足しているけれども、ずっとこのまま行ってしまうと、先ほど言った次世代を担う子どもたちにとってそれは本当にいいことなのかどうか、この辺をしっかりと考えなければならぬと思っています。

意見 だから無機質な人間ができてしまうのかなという気がしますね。いろいろな面で、子どもたち同士がいろいろな遊びをしながら感動するということがない。小さいときの感動というのは大人になってもすごく覚えているものなんです。それが今の子どもたちにはない、要するに心の栄養剤というのがすごくないような気がします。子ども同士で遊びながら感動して心の栄養にするというものがすごくないから、無機質な人間がどんどんできてしまうような気がしますけれどもね。

川合市長 今の点について若い人たちはどういうふうにとらえますか。

意見 時代の流れというのはやっぱりあるんだと思います。

意見 それで済ませてしまっていていいんだろうかというのもありますね。

意見 このネットワーク時代の変容というのは、その子どもにとって、自分も大学生ぐらいですけれども、その小・中学生ぐらいの気持ちが今よくわかりませんという言い方は、彼らの気持ちの中にはそれなりの形ができていて、よく駅とかに行くと、携帯いじって、ゲーム機器を持ち寄って駅のホームでやっているような、高校生ぐらいですけれども、そういう子を見ると、確におっしゃることもわかりますけれども、そういうのがもしかしたらこの社会のネットワークとして構築されていて、彼らの中でそういう機能を果たしているのかもしれないし、だからそういうのはちゃんと理解していかないと、そういう議論はできないかなという気がします。

《学校・自治会・子どもサポート委員会の区域》

意見 先ほどの発言と関連があるんですけれども、学校と自治会と子どもサポート委員会とかいろいろあるんですけれども、範囲がはっきりしてなくて、同じ自治会でも全然違う学校のほうへ応援に行ったり、私は第3ですから、何回も申し上げるんですけれども、地区の公民館と教育委員会と自治会、この三者が一体になってやるんですけれども、全然関係のないほうに振り向いているわけですね。

はっきり言いますと、私のところは、小学校は泉小学校と今成小学校、中学校は野田中と富士見中、これが第3地区の学校なんですけれども、さて今度子どもサポートをやるというと、全然関係のない学校のほうに応援なり指導に行く形になって、子どもは全然通ってもいない、そういうところの子どもをサポートしろというような、この区分けが全然できてないんですね。1中学校区1公民館なんていう話は、市長さんも何代もかわったから忘れていらっしゃるかもしれませんがけれども、そういうことがあるから、私たちは南公民館ですか、全然外れのほうで、学校もみんな外れのほうで、私らは自転車でみんな行きますが、子どもにベエゴマを教えたり、いわゆる手伝いに行くわけですね。ところが各自治会からは一人も生徒が通ってない学校に支援しようということで、非常に不愉快なんですね。これはどうしても範囲を決めてほしいんです。中央のほうにも応援に行くし、今成1丁目のほうへも行きます。でも実際は第3支会であり、第11自治会であり、地区としては第3なんですね。そういう別活動は向こうへ行ってやる、全然区別ができてないというのが現状です。何回言っても直りません。それで活動しろといってもちょっとしにくいですね、はっきり言って。

私も11自治会に入っておりますけれども、小ヶ谷のほうまで行くんですね。学校の通学区にある地区はいいですよ。全然ないところに草取りとか水やりとか植え込

みの手伝いに行くというのは、何のためにサポートをしていくかというところで地区がはっきりしないので困っております。これを何とか早いうちに解決してほしいです。どうしてもだめなら公民館の分館でも建てていただければいいと思います。公民館の数が足りないからそうやっているという言い訳もあるものですから、昔の1中学校区1公民館というのがもし基本にあるのであれば、それをもとに戻して早急に、たまたまこちらは公民館がございませんから、公民館でもつくっていただければいいと思います。これは自治会の連合会でも兼ね合いがありますので、会の区分けについてももう一度見直していただきたい。

《子供の遊び場、公園の使い勝手》

意見 川鶴地区は、幸いなことと言えると語弊があるかもしれませんが、小・中学校が1校ずつ、そして公民館が1つということで、連携をうまくとらせていただき、私たちの社会活動についても大変うまく進められる現状であり、進めていくことができる状態かなと思っております。

先ほどからお話の、子どもたちの生きる力の問題だとか、あるいは学校と地域の連携の問題だとかいろいろ考えながらやっているんですけども、その中で子どもの遊び場という、一つの大きな行事をやろうということで実施しておりますが、年に4、5回やっているんですが、そういう中で他の先進的なところを視察などで行かせていただくと、公園を十分に利用してそして野外活動をするという、先ほど野外活動の場所の設置をとご要望された団体もございませんけれども、地域でもやっぱり公園がもっと使えればいいかなという思いがあります。

具体的に申し上げますと、私どもの川鶴地区には笠幡公園という大きな公園がございます。ただ、その用途は主にグラウンドが中心のように見ております。最近は幼児のための遊戯施設がつくられて大変人気で人が集まっておりますが、そのさらに関越の高速があるほうに林のエリア、樹木の繁っているところがあって、ただ残念ながら下草や落ち葉でいつも余り気持ちよく使える状態ではないものですから、むしろそういうところが子どもの簡便な野外活動の、例えば1つだけ石を組んで炉端をつくれば、そこで火を燃やして何か沸かしてなんてことができるかなということ、簡単な野外活動ができるといいなあなんてことを地域で見させていただきながら思っているところです。団地内の公園について、もっといろんな意味で活用のできる状態に整備していただけるとありがたいなとご要望申し上げます。

《公園の管理》

意見 公園の掃除とかは誰がやられているんですか。

川合市長 児童遊園は地区の自治会にお願いしていると思います。それ以外のいわゆる都市公園というところについては公園整備課がやっていると思います。

意見 福原では今、スポーツパーク福原という2町歩ぐらいのグラウンドと公園をつくっていただいたんですが、地元の利用団体の人たちがかわるがわるに草取りとか掃除をしています。それは川越市のほうから補助金が出ます。それとあとは、その中に貯水槽の大きいのがありまして、そのところは自分たちでは草むしりはできないので、ここは市が業者を頼んでやってもらっています。

市民部長 公園の使い勝手については、果たして都市公園というのは人が集まってそれだけでいいのかどうか、今おっしゃっているようなこともございますよね。

意見 災害時の避難所との兼ね合いもあると思いますので、いろんな意味で検討していただいて整備していただけたらと思います。

《荒れる学校の対策》

意見 学校教育の関係なんですが、今年度から県の教育委員会がさわやか健全サポートということで、現職の県警の警察官が火曜日と木曜日に毎週学校に通っているんですが、そのときに私もその一委員として、どんな内容でやるのかなということで一緒に同行させてもらったんですが、その中で非常に驚いたことには、学校内の施設が相当破壊されているんですね。これはどういうことかというので、校長と教頭に確認しましたところ、破壊した親御さんと呼んで賠償金を請求している、ところが痛しかゆしで、それが年々たび重なりまして経費がままならない状態だというので、そういうことに対して教育委員会はどうなのかと打診はしましたが、やはり学校に任せてあるということで、実態を見ているのかどうかわかりませんが、施設が相当ガムテープで張られていたり、相当高価な物が破壊されている状況です。

少しでもそういう関連から見て、学校の教職に携わっている人が、授業時間の空いている先生が2、3人で廊下を巡回しているわけです。そういうことが余り出てこなかったものですから、生徒がこういう状態だと、たまたま私が10時半ごろ回っていたときに、3年生の生徒が堂々と格好つけて出てくる、こういうことは注意できないのかという話をしてみたら、学校に来る者には言えないんだと、本質的な面もあるみたいなんですけれども、そういう子どもたちに緩やかな対応をしているというのは、果たしてどういう結果につながっていくのか、非常に疑問なんです。

さらには、担任の先生方がそういうものに終始かかわっていると、時間が幾らあっても足りない。実態としては夜11時ごろに学校ではいろんな問題が発生してくるみたいなので、私も夜電話がかかってきて行って見るんですけれども、教室の中が非常

に荒れ狂っている。教育委員会のほうも学校の教職に携わっている人だけにこういう時間を取らせていいものか、それはもう専門的な担当者を置くとか、何か事故とか事件でもあったらそこでやるしかないのか、何か考えたほうがいいんじゃないかと思うんですね。先生方も苦労していると思います。川越市の中学校は22校ありますから、実態をよく見てもらったほうが良いと思います。

私は、学校に携わっている自治会長さんに7月の14日に声をかけさせてもらって、全員一緒に学校を巡回してくれたわけですが、一瞬にして皆さん驚いて、こんなに破壊されているのか、どうしているんだろうということで、いろいろ終わってからミーティングをしたんですが、家庭の親御さんのかかわり方が現在はまるっきり変わっているんだということで、我々も話を聞いて驚いたんですが、教育委員会も学校の教育者だけに負担をかけないで、そういう対象の請求だとかそういうものを考えてもらったほうがいいんじゃないかと思いつく思っているんです。一度実態をよく見てもらったほうが良いと思います。

2つ学校がありますけれども、一方は朝の掃除も徹底してやっているのではほかの学校よりきれいなんですね。もう一方は、我々の母校なんですけれども、そういうふうに破壊されていて非常に醜い状態で、それで果たして教育の場が充実しているのかと思うほどです。授業崩壊をさせるような生徒がいるためにそういうことがあるということで、教育委員会に見てもらったほうが、私は学校の先生も一層力が入って指導ができるのではないかと思っているんですがね。

川合市長 荒れる学校の問題については、教育委員会もそれなりの配慮と努力をしているとは思いますが、さらにいろいろな方法でそういう問題を解決するように働きかけはもちろん私のほうからもしますけれども、現状としては先ほどおっしゃられたように家庭が家庭の体をなしていない、親が親の体をなしていない、そういう家庭の子どももいるという現実があって、しかも今は体罰は一切できませんから、そういう面もあって逆に子どもが教師に対して暴力を振るうという事態もたまにはあるのですね。

そういう暴力に関しては、今の対応としてはまず親に注意をして、弁償しなさいということを使うけれども、たび重なる場合はもう器物損壊として刑事告訴をしているのです。中学生を行政が告訴するのはどんなものかなという、やや最初のころは抵抗があったのですが、そういう対応しか考えられない、要するに刑事事件として処罰を受けさせることで矯正しようと、そういう方法しかとれない状態になってしまっている子どももいるようですね。もちろんそこに行く前に教育者としてはいろいろな努力

をしてそういうことのないような努力はしているとは思いますが、なかなか現実には、100%なくなるという状況ではないということですね。もちろん教育委員会にもさらに努力を促すような働きかけは私のほうからもしたいと思います。

宍戸副市長 教育委員会も体制的に、他の学校では学校のクラス数プラス何人という形の先生の配分ですが、そういう学校を困難校というのですが、困難校には加配といって先生の数を余分に出したり、あるいは非常勤さんを配置したり、あるいはおっしゃられたように警察に頼んで現職に来ていただいたり、あるいは警察官のOBの方に来ていただいたりという体制はかなりとっております。教育委員会もそこは十分承知しています。恐らくそれでも先生は夜11時まで対応している。それは夜そういう事件を起こすと、警察に迎えに行くということがありますので、教育委員会は十分に学校ごとの状況把握をして、教育委員会に報告した上でそういう人事配置をかなり強固にやっているということで、なかなか応じ切れないのですが、及ばずながら努力はさせていただいているということでございます。

《野外活動施設の設置》

意見 これだけのいろんな青少年の会がある中で、ときどきガールスカウトというのはボーイスカウトと間違えられるような、何なんですかって言われるので、ちょっとここで宣伝をさせていただきたいと思います。

今、ガールスカウトでは小学校1年生から高校3年生まで、人数は37名抱えています。結構青少年に関しても40名を抱える団体なんですよ。ただ、さっきもボーイスカウトの方がおっしゃったように川越は活動の場が本当に少ないんですよ。羨ましく思うのが狭山の智光山で、ときどき拝借しています。一時は福原のほうにもできるという話が出たんですけども、それもいつの間にか立ち消えて、なかなか我々がキャンプをするところとか、そういうことができるところはないかなと、伊佐沼なんかにもほしいなとか、いろいろな思いはずっと何十年も抱えながら来ているんです。

そういう段階で、この間も災害の募金活動をしまして、子どもたちも2時間ぐらいで13万ぐらいの募金活動ができたんですよ。それをうちのほうの中学校にコンタクトをとりながら贈ったり、そういうことも活動の中でしていますし、結構災害時にも役に立つのではないかなという活動もさせていただきながらしています。

ほかの団体でも、さっきも吹奏楽の方も今こういうふうなことをやっているし、こういうことがあったらいいなとおっしゃってましたし、そういうふうな一つ一つの団体の中でもこうあったらいいなというところがきっとあると思うんですよ。ですか

らせっかくこういうタウンミーティングができたので、私はそれをぜひお願いをしたいと思っています。

多分これはボーイスカウトもそうだし、青連協のほうには青少年相談員の協議会にも入ってますし、本団も入ってますから、その辺でいろんな面は共通してはいるのですが、やはりその辺はもうちょっと、私たちリーダーやら何やらは自腹を切って子どもたちの面倒を見て、それはお母さんたちもそれなりに負担をし、会費を払って、ただお陰さまで市のほうからも助成金をいただいているので助かるのですが、今日は本当に活動ができる場を何とか、川越市にも結構場所はあると思うので、何とか方法を考えていただいて、今の時代は無理かもしれないけれども、これから何年か先のためにも、子どもたちが少ない中でもそういう安心して活動ができる、今は南大塚のほうの農園で、荒幡農園を借りてそこでキャンプをしてみたりとか、なかなか苦労はしているんですね。ですからそういうものも地元にあったからいいんですけども、何かできたらそういうふうな安全に、まして女の子なので、余り危ないところではやりたくないですよ。ですからその辺をもうちょっと考えていただけたらなと思います。

頑張っておりますので、一応皆さんにガールスカウトって何だというふうに思われなないように宣伝しました。よろしくお願いします。

意見 今の関連ですが、川越市には伊佐沼という立派な公園がありますし、そのすぐ近くには農業ふれあいセンターというのがあります。あそこを何とかすれば、中には教育できる場所がありますし、それから裏側には市民に貸している農園もありますので、全部でなくても、そういうところを何とかしていただければ、周囲には体育館もあるし、あそこは避難場所にもなりますので。

川合市長 以前、伊佐沼公園には炊事ができる、要するに飯ごう炊さんができるようなそういう施設があったような記憶があるのですが、あれは何でなくなったのですか。

市民部長 想像ですけども、あそこは都市公園ですよ。ですから自治会さんが管理してくださっている児童遊園等でしたら、そちらのほうで目が行き届いてこういうふうな使い勝手しましよとかになると思うのですけれども、恐らく、都市公園というのはいろいろな人が入って火を燃やしたりとか、そうなっていったときに、使い勝手の中でだれが責任を持つんだというようなことになっていって、結局そういうことで、先ほどのナイフの話ではないですけども、みんなが安心して、あそこのところでわからない人が火を焚いて何かやってるとか、そういうようなお話の中で、だんだん昼間遊ぶだけみたいになっていってしまったのではないかと思われ、推測です

が。

あと、今の農業ふれあいセンターも、これは役所の言い分というのは大体そんなものですが、農業ふれあいのための農業の方のためのものだから、そうではない者は広場があっても使ってはいけない、今回の震災の場合は緊急避難でしたから、市長からそこを使いましょうと、シャワーがありますし、炊事もできますし、畳の部屋もあるから、避難者が出てきたときに一番快適に過ごせるだろうということで選ばせていただきました。ですからそういうような垣根が、先ほど話もありましたけれども、川鶴の公園の半分は森林みたいになっていますから、そういうものの使い勝手とかいろいろ工夫すれば、新たなものを用意しなくてもできるようなところはあると思うのですが、ちょっとその辺については担当の部署にうちのほうで確認をさせていただいて、どういう問題があるのか、後日、皆様のほうにご報告をさせていただきます。

《なぐわし公園》

意見 今の話なんですけれども、名細には今度なぐわし公園というのができます。これは都市公園になっているんですけれども、ここの部分に関しては今のお話のようなものはできないのでしょうか。

川合市長 今着工しているのは要するに温水プールが中心で、野外活動ができるような部分は計画の中には、今やっているところには全く入ってないのですね。まだこれから先、二期工事とか残っているのですが、そっちのほうはたしかグラウンドが中心になるような公園だったと思います。

意見 温水施設の前はかなりの芝生広場になるわけですよ。木も植えられるということで、その辺のところを工夫すれば今のキャンプもできるような気がするんですね。火を起こすということもあるので、その辺のところを考慮に入れて、今のお話じゃないんですけれども、都市公園はそういう面でできないとか、そういう枠組みがあるのかわからないんですけれども、ぜひ、困っている人、団体がいっぱいいますので、知恵を出していただきたいと思います。

《河川敷のキャンプ》

意見 たびたび申し訳ないですけれども、私は霞ヶ関北に住んでいるんですが、あそこには御伊勢塚公園があって、春先になると御伊勢塚公園の河川のところが石畳で整備したので散歩ができるようになったんですけれども、あそこはすごい勢いでキャンプをやったりとか、夜はもうキャンプ場みたいになっているんですが、あそこは特に川越市で管理しているというわけじゃないんですよ。

川合市長 あの河川敷は県の管理だと思うのですが、あそこでキャンプしている人が

いるのですか。

意見 かなりいますよ。

意見 御伊勢塚公園のわき道のところはもうキャンプ場になって、そのわきにコンビニ二等があるんですけども、そこのごみ箱にごみをガンと持ち込んで、いつもその周辺の人たちは月曜日の朝に、またごみがいっぱいあるねと言って毎朝掃除をしているという状況です。私はあそこは普通にキャンプできる場所だと思ってました。

市民部長 管理が市ではないものですが、よく川の中でバーベキューをやっている人がいますよね、川越の川原に限らず、多摩川の橋の下ですとか。管理は国とか県で、許されているのか、暗黙の中で皆さんが合意してやっているのかよくわかりませんが、すごくいろいろな地域の方が来ているので、苦情等があれば恐らくやらないでくださいということで閉鎖になってしまうと、これはまた寂しいですね。

《中学生が担う地域福祉活動、成年後見制度》

意見 川越市では地域福祉5カ年計画というのを始めてさまざまな検討をされているかと思うんですが、私どもも高齢者の方々へのボランティアとか、あるいは見回り隊の設置の問題だとかいろいろ検討させていただいているんですが、そういう中に中学生が何かの役割を持ってないかなという、市のほうでまとめられた計画の概要とかいろいろ読ませていただいている中に、なかなか中学生レベルの参加というのでしょうか、その辺のところは余り表現されていないような、もちろん地域として、地域の住民としてということで当然かかわれるとは思いますが、そういったことをもちろん中学校に対して行政のほうからやれという形になりますと、なかなか難しいと思いますけれども、これからの社会を考えると何らかの形で中学生とかに、もっともっと高齢者に対する意識を高めて、何らかの手を携えるようなシステムができてくるといいのかなと思っておりますので、そんなご検討がこれからあるといいなと思っております。

意見 関連で、地域福祉活動計画を盛んにつくっていらっしゃるんですけども、川越市の場合、超高齢化になったときに、判断能力が落ちてきた人たちのための成年後見制度を、例えば、市長さんは弁護士さんですから、成年後見制度が川越市はどういうところまで整備されているのか、それから社会貢献型の成年後見についても、これは市民に多く参加してもらって、そういう判断能力が低下している人たちのサポートをする、その辺もどうなっているのか、このあたりについてちょっとお聞きしたいと思います。

川合市長 すみませんが、その辺の細かい点は私の頭の中に入れておりません。川越

市は成年後見という点では市が申立てをして後見人をつけてもらう、そういうようなことを積極的にやっているということは認識しているのだけれども、一般市民に後見人になってもらうための教育とか研修とか、そういうものをどの程度やっているのか、ちょっとすみませんが今私の中に入れておりません。

宍戸副市長 社会福祉協議会などでも、高齢者の方のために何か手を出せないものかと検討を始めております。社協はまさに成年後見制度が大事なので、どうやって支援していこうかとか、確かに市以外のほうで動き出そうとしております。

意見 市の行政が指導的役割をしていくべきだと思いますので、そんなこともお願いしたいなと思います。

《ノーブレーキピストの規制》

意見 最後に一言だけ、交通安全の関係なんですが、最近ブレーキのない自転車というのが大変話題になっておりますし、問題だと思います。あれは事例を見るにつけてとんでもない自転車だと思いますので、「売らない 買わない 乗らない 乗せない」というふうに、ぜひそういう動きを川越市としてもしていただければと思います。

川合市長 本日は大変貴重なご意見を数多く頂戴しましてありがとうございました。皆様方が地域の子どもたちの健全育成といいますか、成長のためにいろいろなことを考えてくださっているということがよくわかりました。

特に荒れる学校の問題については、いろいろな方法を考えなければならないとは思いますが、それについてできる限り子どものためでございますので努力をしていきたい、荒れる学校をなくす努力はしていきたいというふうに考えております。今後とも皆様方の、子どもたちに対するご協力をぜひともよろしくお願い申し上げます。今日は本当にありがとうございました。